

**議題案名**：ODAによるナイジェリア、ニジェール・デルタ地域での活動に対する支援のあり方について

**議題の背景**：SWACIN はナイジェリアで女性・子供をサポートする団体としてアクワ・イボン州に於いてシェルター設立、そしてシェルター運営現地の弁護士団体の支持を得 2012 年に立ち上がりました。現在クロスリバー州、カラバー市で気候変動セミナー、コミュニティーベース石油汚染清掃工事、クリーンアップのための職業訓練事業企画でカラバー大学大学院公共政策管理研究所 (IPPA/CRADLE) と共同企画しています。これらの企画を通して気候変動、失業、環境汚染、それにまつわる女性子供の虐待等の問題を総合的な解決に向け取り組んでいます。そのため、ニジェール・デルタ地域での活動への支援を JICA に要請したところ、ODA の制約でナイジェリアはレゴス、アブジャ以外では活動の支援はできないとの回答でした。

**議題に関わる問題点（議題に挙げたい理由）**：

(ア) JICAの支援があればさらに成果が見込まれるにもかかわらずナイジェリア、ニジェール・デルタでの活動に支援が行われない。

(イ) ニジェール・デルタ産油地域と気候変動調査は日本にとっても重要であるが、気候変動に関わる活動への支援がないために不十分なものになっている。

2. **外務省への事前質問（論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係など）**：

ナイジェリアで、JICAによる活動支援に関してどのような制約があるか？またその理由は？この制約を解除するためには何が必要か？

3. **議題に関わる論点（定期協議会の場で主張したいことや、外務省に確認しておきたいと現段階で考える点）**：

(ア) ナイジェリアおよびニジェール・デルタの重要性と日本の役割

- ① ナイジェリアはアフリカ最大の人口大国であり、味の素、ホンダ、ニコンなど日本企業も進出している。ニジェール・デルタは重要な産油地で、またLNGの生産も多い。日本のLNGの輸入は近年伸びている。アフリカからのLNG（液化天

然ガス) の輸入量が急増している。先月発表になった貿易統計によると、2012 年はアフリカ産 LNG の輸入量が前年比で約 2 倍の 878 万トンに達し、全輸入量の約 10% を占めた。2011 年も 2010 年比で約 2.5 倍も伸びており、LNG 輸入に占めるアフリカ産の重要性が高まっている。アフリカからの LNG 輸入が急増しているのは、福島第 1 原子力発電所の事故以来、発電に使われる LNG の需要が増えたからだ。年間の総輸入量は 2010 年の 7000 万トンに対し、2012 年には 25% 増えて 8731 万トンに拡大した。アフリカ産の内訳を詳しく見ると、最も多いのがナイジェリアの 478 万トンである。

- ② 日本の商品・技術はその耐久性、信頼性、品質に対する高い評価がある。カーバー大学公共政策管理研究所から環境汚染清掃工事のため日本企業から以下の器具の探索要請が出ている。(別紙「油汚染浄化に使用する器具」参照)

S/No	種類	特性
1	物理的	ブーム：フェンスブーム、カーテンブーム；耐火ブーム；
2		スキマー（ブームと組み合わせて使用する）； ウィアスキマー；oeliophilic スキマー、吸引スキマーの品種があります；
3		吸収剤：天然の無機吸収剤、合成吸収剤；
4	化学的修復	分散剤：界面活性剤、安定剤、および溶媒；以上 9 種類の VIZ：Tergo、BP、Androx、Corexit（4 種類やブランドの）、シェル DVC；Slickgone
5		Solidifiers：18 種類/ブランド以上
6	熱放射（燃焼）	油の空中発射
7	バイオレメディエーション - 細菌使用	菌類の品種数の増加は、油浄化方法として、評価を受けながら使用されている。

(イ) ニジェール・デルタ産油地域と気候変動の調査の現状とその重要性

- ① ニジェール・デルタはアフリカで最大の石油・ガス生産地である。
- ② ニジェール・デルタのガスフレアはアフリカ最大の温室効果ガス現象を起こし、石油汚染は史上最悪と言われる環境汚染で気候変動の要因でもある。

- ③ 当局の連携するカラバー大学大学院のCRADLEおよびIPPA公共政策管理研究所はナイジェリアの公式-REDD+（森林破壊と森林劣化からの放射の削減持続可能な開発に携わる国連のプログラム）とアフリカの国連-REDD+ネットワークの国を代表する調査チームである。

([http://ecojournalism.org/en/march2012/articles/224/\\$4-Million-UN-Grant-for-REDD-in-Nigeria-undptunde-akingbade-calabar-deforestation-soil-degradationredd.htm](http://ecojournalism.org/en/march2012/articles/224/$4-Million-UN-Grant-for-REDD-in-Nigeria-undptunde-akingbade-calabar-deforestation-soil-degradationredd.htm) 参照)

- ④ カラバー大学大学院公共政策管理研究所 は日本の技術協力、クリーンアップ、現地民職業訓練セミナーの共同企画に強い関心、支援要望を示している。

(ウ) ニジェール・デルタでの治安改善の状況:

- ① 2000年初期と後半の若者たちの出現、イスラム宗派（ボコハラム）またそれに関係する新テロ強化で変動のため政治的地域内で安全保障に関して在住外国人から懸念の声明があり、クロスリバー州政府は正式にその安全保障を宣言している。
- ② 数か月前マラウイがナイジェリアとのサッカーの試合を予選し、ナイジェリアのフットボールチーム、スーパーイーグルスと対戦する資格を獲得した際、UJ Esueneスタジアムでの安全確認の要請があった。これに対し、FIFA（国際サッカー連盟）UJ Esueneスタジアムはクロスリバー州立そしてその周辺は安全であるとの判決を下している。この安全記録がカラバー領域で主要な観光プログラム、毎年恒例の文化祭（カラバーカーニバル、その他の文化的な娯楽番組）の広告となっている。
- ③ クロスリバー州立は2009年にアクワイボン州に76油井戸を損失しましたが、以上にあげた理由で外国投資家の注目を浴び 直接USD30億ドル程度まで製造投資に達している。USAの主要企業（ジェネラル・エレクトリック、GE）はすでにカラバー地域でタービン製造工場を完成させている。したがって、これだけの

クロスリバー州立の安全保障記録があり、他の競争企業（中国、米国等）が地域に群がっている間に日本政府はその有利条件を理解しないのであれば不思議ではないか。（別紙「カラバー地域の投資家、環境の歴史と地理」参照）

- ④ 同研究所の研究者Richard Ingwe氏による最近の学術論文でクロスリバー州立地域の良好な社会経済状況が報道されている。安全性ゆえ準国家地域の社会経済活動を誘致している。例を挙げるとスポーツイベントでサッカー試合、全国のスポーツフェスティバル、その他オブツ最高峰レース賞金フェスティバルが毎年恒例の競争祭となった。
- ⑤ 州立警察長、チーフ・セキュリティ・オフィサー、Rekpene Bassey氏との連絡を取り正式な安全保障の手紙の要請をする計画である。

(エ) 気候変動分野ですが、ODAは途上国支援で経済産業省、環境省とともにアクションフォーカールアース（ACE）という地球温暖化対策が2013年11月に企画されている。これは50%温室効果ガスを2050年までに減少させるという目的で、具体的な温室効果ガス削減行動を直ちに開始することと、すべての国が参加する枠組みに合意できるよう日本が総力を結集するということですがニジェールデルタのガスはほとんど抽出されると同時にデルタですぐに**ガスフレア**する。そのため一か所で莫大な温室効果ガス現象が起こる。アフリカの温室効果ガス排出地であり、気候変動に非常に脆弱な地域でもある。ぜひACEのパートナーシッププログラムで日本とWin-Winの関係を構築することを考慮して頂きたい。以下参照願います。

[www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/bunka/energy/dai1/siryou4.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/bunka/energy/dai1/siryou4.pdf)  
[www.kantei.go.jp/jp/singi/ondanka/kaisai/dai27/siryou2\\_2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ondanka/kaisai/dai27/siryou2_2.pdf)